福井女子中学生殺人事件 再審無罪判決に対する声明

7月18日、名古屋高等裁判所金沢支部第2部（増田啓祐裁判長）は、前川彰司さんにかかわる、いわゆる福井女子中学生殺人事件の再審公判（やり直しの裁判）で、検察の控訴を棄却し、ふたたび前川さんに無罪判決を言い渡した。私たちは、この無罪判決を原審地裁の無罪判決及び昨年10月の再審開始決定を踏まえた、事実と証拠に基づく道理ある判決として、説論を含めて、心から歓迎する。

前川さんを有罪（懲役7年）とした原審・高裁判決は、いずれも前川さんの知人で、覚せい剤事件で逮捕されていた暴力団関係者Aの減刑などを見返りとする嘘の供述をはじめ、Aの関係者による「事件が起きた夜に服に血が付いた前川さんを見た」などという虚偽の証言に依存し、恣意的な事実認定によって作り上げられたものであった。

本判決は、これらの知人らの目撃証言について「捜査に行き詰まった捜査機関が誘導などの不当な働きかけを行い、関係者がそれに迎合した証言をした結果形成された疑いが払拭できず、いずれも信用できない」と明快に断じた。また「(事件の夜) 衣服に血の付いた前川さんを見た」と証言した関係者が事件当日に視聴したとされるテレビ番組「夜のヒットスタジオ」の内容が実際には事件当日に放送されていなかったという事実を検察が原審で秘匿したことについて、「当時の検察官は、テレビ番組のシーンが事件当日に放送されていなかった事実を把握したとみられるのに、もとの裁判で明らかにしなかった。裁判では事件当日に放送されたという事実と反することを、ぬけぬけと主張し続けている。その誤りを明らかにすることなく、裁判所にも真実とは異なる心証を抱かせたまま有罪判決を出させ、これを確定させるに至っている。再審でもこの点について何ら納得できる主張がされていないこともあわせると、知らなかったと言い逃れができるような話ではない。当時の検察官の訴訟活動は公益を代表する検察官としてあるまじき、不誠実で罪深い、不正行為と言わざるをえず、到底容認することはできない」と厳しく批判した。

裁判長は、およそ3時間かけて判決を読み上げたあと前川さんに声をかけ、「再審に至らずとも、無罪判決が確定していた可能性が十分にある。前川さんには39年もの間、大変ご苦勞をおかけし、申し訳なく思っています」と謝罪した。そして「前川さんのかけがえのない人生を長期間、服役で奪うことになり、取り返しのつかないことをしました。この再審にかかわった裁判官として非常に重く受け止めています」と刑事司法の構造的問題点について触れるとともに、再審制度についても「適正かつ迅速な処理に努めていかなければならない」と述べたうえで、最後に「これからの前川さんの人生に幸多からんことをお祈りしております。どうかお元氣でお過ごしください」とことばをかけている。

警察と検察の責任は極めて重大である。検察が本件再審無罪判決を真摯に、真正面から受けて止めて、最高裁に上告しないことを直ちに表明し、前川さんに謝罪することを強く求める。さらに、第三者機関による全面的な検証を求める。

本件では、第二次再審請求審で287点もの証拠が開示されたことが再審開始・再審無罪の決定打となっている。再審における証拠開示など「再審法」が改正されていれば、前川さんはもっと早くに冤罪の苦しみから救済されていた。再審無罪判決は、あらためて再審における証拠の全面開示と、再審開始決定に対する検察官の不服申し立ての禁止が喫緊の課題であることを示した。

私たちは、本判決が確定して前川さんのかつての穏やかな生活が一日も早く回復することを願うとともに、先の通常国会で野党6党が共同提案した「再審法」改正法案を秋の臨時国会で成立させるために、一層奮闘することを表明する。

2025年7月19日

前川彰司さんを守る福井の会
日本国民救援会福井県本部
日本国民救援会中央本部
再審・えん罪事件全国連絡会